

「子育ては親育ち」

秋葉 建司

1. はじめに（強い精神力と他人を思いやる気持ちを大切に）

◎ 大河ドラマ「八重の桜」より

※ 「会津藩幼年者 一什の掟一に学ぶ・・・「地域子ども会の存在意義」

- 一、年長者（としようえのひと）の言うことには背いてはなりません。
- 二、年長者には、おじぎをしなければなりません。
- 三、嘘言（うそ）をついてはなりません。
- 四、卑怯な振舞をしてはなりません。
- 五、弱い者をいじめてはなりません。
- 六、戸外で物を食べてはなりません。
- 七、戸外で婦人（おんな）と言葉を交えてはなりません。

ならぬことはならぬものです。

会津藩校 日新館

◎ 現代版としては

- 一、「命あつてのもの種」命を粗末にしてはなりません。
- 二、人を傷つけたり、人の命をうばったりしてはなりません。（虫を見つけたら、良く観察をして、むやみに殺してはなりません。） 浜田広助
- 三、他人の物を盗ってはなりません。
- 四、人を馬鹿にしてはなりません。（いじめに繋がる） 人間尊重の精神
- 五、人の所為にしてはなりません。（嘘つきに繋がる）

◎ 我が家の掟を持とう（家訓）・・・母親の口癖

2. 「子育て」と「親育ち」の考えの違い

◎ 子どもを客観的に良く観察してみよう。固定概念にとらわれずに

- ・「人見知り」の過程・・・誰か「人見知り」を教えたのですか？
- ・「好き嫌い」が始まる・・・「納豆は、おいしくない」と誰が教えたのですか。」 その子の臭覚感覚か？
- ・「どの子ども」本を読んでもらうことが大好き（同じ本を何回でも）
- ・「お母さん」のやっていることを真似したくなる。（包丁で切りたがる。）

◎ どの子どもにも同じような発達傾向が見られる。（どの子どもよりよく成長し続けられる遺伝子を持って生れてきている。）

「子どもは、自分の力で、いろんなことに挑戦したりしながら、望ましい方向へ発達を遂げて行く力を持っている。」・・・「つまり、**子育てして行く。**」

10人子どもがいても、どの子ども立派に成長していく。（論より証拠）

◎「子育て」とは、親の価値観で、親の先入観で、子どもを育てていくこと。

※ 子は、生まれた時から感情を持って成長している。人は、感情動物である。故に感情を無視して育てるとどうなるだろうか。また、こうしたいという意志もある。この感情と意志を無視し、育てると？

※ 「しつけ」と称して、踏み込み過ぎると「虐待」につながる。

3. 親の子どもへの接し方（あせらず、くさらず、比べず、ゆとりを持って）

ポイント1.

◎ 子育てしやすいような環境づくりや子どもの発達に合わせて、創造的に支援(味のある支援)をし続けることが重要である。

賢い親とは、子育てに合わせて、支援を上手にしていける人である。

「親育ち」

◎「まっとうに親が活着ているなら、何もしなくても、子は立派に育つ。」
—昔からの教え・・・「子は親の背中を見て育つ。」— ほったらかされても・逆境でも

ポイント2.

◎「子育て」の考えに立った親は、我が子にはひいでているところが、必ずあるはずだと信じ子どもと接し続ける。あるいは、いろんなことに挑戦させてみる。(水泳でもよし。ピアノでもよし。ダンスでもよし。スポーツでもよし。)・・・「いやいやするなら、きっぱりとやめる。」金の無駄遣い

◎「光る部分」が見えてきたら、どんな支えをしていけばよいか工夫する。金もかける。

ポイント3.

◎「早く字を覚えてくれたらいいのに」と思い、あせってはならない。「教えて」とせがむときがチャンス。親の都合で、子どもに接してはならない。

—小学校に入ってからで遅くはないが、教えるときには、正しく。—

ポイント5.

◎親の子への信頼は、何よりの宝である。親の愛に勝る宝なし。

◎「認めて、褒めて、励まして」より良い子どもに育てましょう。

◎「話上手な子に育てたい」と思うなら、聞き上手な親になろう。

最後に、知らず知らずのうちに、子どもは成長し続けていることに喜びを味わってみましょう。(子どもの素晴らしい成長を発見し続けられる親になろう。)

子どもは親の鏡

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる。
とげとげしい家庭で育つと、子どもは、乱暴になる。
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる。
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持になる。
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる。
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる。
叱りつけてばかりいると、子どもは、「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう。
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる。
広い心で接すれば、キレル子にはならない。
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ。
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ。
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる。
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる。
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ。
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る。
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ。
やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ。
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ。
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと
思えるようになる。

「子どもが育つ魔法の言葉」より

ドロシー・ロー・ノルト
レイチャル・ハリス 著
石井 千春 訳

PHP文庫より

子育て三大 ポイント・・・「認め」て「誉めて」「励ましを」
子育てのポイントは、万国共通である。